

長寿命化めぐりセミナー開く

県コンクリート診断士会

新潟県コンクリート診断士会(会長・地濃茂雄新潟工科大学教授)は1日、ほんぽーと新潟市立中央図書館で今年度第1回技術セミナーを開催した。写真。



初めに地濃会長が「会員同士で議論を深め合ったい」とあいさつした。セミナーでは平賀和文北陸地方整備局道路部道路路保全企画官が「北陸地方の損傷橋梁の現状と対応」、西川孝一ネクスコ東日本道路事業部改良チームリーダー兼建設課長が「ネクスコ東日本におけるコンクリート

構造物の現状と対策」をテーマにそれぞれ講演した。平賀氏はPC

ケーブル9本の破断が見つかつた妙高大橋の対応を詳しく説明。将来的な架替を視野に補強と管理を行っていることを報告した。西川氏は塩害対策を中心に説明し、床版防水工が有効と解説。最新技術なども紹介した。

引き続き、地濃会長がコーディネーターを務め、「コンクリート構造物の長寿命化の課題」をテーマにしたパネルディスカッションも行われた。パネラーは平賀氏、西川氏に加え、会員の池浦一雄(木戸生コン)、中村博之(BASFポゾリス)、大倉英敏(コンクリート診断)、宮井隆

利(本間組)、近藤治(開発技建)の各氏が務めた。

この中で平賀氏は凍結防止剤による塩害が北陸地域の特徴としたうえで、きちんと維持管理を行わないと朽ち果てる橋梁が続出すると警告。官も民も挙げてそのための予算を確保しないとけないと訴えた。さらに、このまま予算が減つてくると舗装面にも影響が出るとともに、地域を守る建設業者がいなくなると訴えた。また、会員パネラーはそれぞれの立場から長寿命化策を説明した。

セミナーには会員を中心に約70人が参加。講演やパネルディスカッションを通してコンクリート構造物を長持ちさせるための方策や技術を学ぶとともに、長寿命に対する考え方をいっしょに考えた。